

第3回浪江町除染検証委員会議事要旨

- 日時 : 令和4年11月1日(火) 10:00 ~ 15:00
- 場所 : 浪江町役場本庁舎 2階 中会議室
- 出席者 : 井上委員、塚田委員、眞田委員(順不同・敬称略)
- 福島地方環境事務所 環境再生課 中村課長
- 福島地方環境事務所 環境再生課 川道専門官
- 福島地方環境事務所 環境再生課 上野調査員
- 福島地方環境事務所 浜通り北支所 浪江分室 渡邊支所長補佐
- 福島環境再生事務所 浜通り北支所 浪江分室 永田専門官
- 福島環境再生事務所 浜通り北支所 浪江分室 安野専門官
- 復興庁 福島復興局 大宮参事官補佐
- 復興庁 福島復興局 浪江支所 平浪支所長
- 復興庁 福島復興局 浪江支所 片井次長
- 福島県 生活環境部 中間貯蔵・除染対策課 峯村主任主査
- 福島県 生活環境部 中間貯蔵・除染対策課 佐々木主査
- 日本原子力研究開発機構 吉村研究主幹
- 浪江町 : 成井副町長
- 企画財政課 企画調整係 山田係長
- 住民課 柴野課長、佐藤課長補佐、田中主査

【資料】

現地視察資料 「線拠点県道 道路舗装除染における対応結果について」

資料 1 「第 3 回浪江町除染検証委員会事業計画」

資料 2 「浪江町特定復興再生拠点区域における解体及び除染の進捗状況」

資料 3 特定復興再生拠点区域の空間線量率のグラフ及びメッシュマップ

資料 4 線拠点資料（走行モニタリングメッシュマップ）

資料 5 「浪江町大堀地区での D-シャトル測定結果と被ばく評価結果について」

1 開会

| 発言者 | 内容 |
|-----|--------|
| 事務局 | (開会宣言) |

2 現地視察

| 発言者 | 内容 |
|-----|---------------------------|
| - | (線拠点県道及び大堀拠点の視察、準備宿泊者宅訪問) |

3 あいさつ

| 発言者 | 内容 |
|-------|----------------|
| 成井副町長 | (午後の部の開始に伴う挨拶) |

4 第 3 回浪江町除染検証委員会について

| 発言者 | 内容 |
|-----|-------------|
| 事務局 | 資料 1 に基づき説明 |

5 議題

◆ 浪江町除染等進捗状況報告

| 発言者 | 内容 |
|-------|--|
| 川道専門官 | 資料 2、資料 3 に基づき説明。 |
| 井上委員 | 家屋の解体について、申し込みもしていなくて、戻るつもりもないところはあるのですか。 |
| 川道専門官 | どうしても一度除染すると解体できないので、解体するか悩んでいて、未除染の状態が残ってしまっている場合もあります。 |
| 井上委員 | 最終的に解体や除染がされればいいが、そうでないと皆さん戻って来られても、周囲に解体も除染もしないで残ってしまうことになりませんが、その辺を町はどのように考えていますか。 |
| 副町長 | 他町村や解除されている地域の事例を踏まえれば、解除後 1 年間の（解体の）判断をする機会（猶予）があることになります。しっかりと周知して、どうしていくのか、丁寧に関わりながら進めていければと考えます。 |
| 井上委員 | 町として、残らないように丁寧に説明された方がいいです。 |
| 副町長 | （環境省での解体受付が終了後は）住民自身で費用負担することになるので、周知されないのが一番まずいと考えています。理解されるようにしていきます。 |
| 塚田委員長 | （解除区域は）固定資産は元に戻っているのですか。 |

| | |
|-------|---|
| 柴野課長 | 解除区域は、ほぼ通常に戻っています。一部面積等の要件と、解除した住宅用地の特例で減免になっているくらいです。 |
| 塚田委員長 | 除染、解体のリミットについては、所有者に交渉（打合せ）の際に伝えているのでしょうか。 |
| 川道専門官 | 解体については、町の説明会等で周知していきたいと思います。除染は締め切りが無いのですが、同意取得業務の中で働きかけています。同意してもらえるようにしていきます。 |
| 塚田委員長 | 漏れのないようにしてください。広範囲なので大変だと思いますが宜しくお願いします。宅地だけでなく農地も含めてでお願いします。 |
| 井上委員 | ヒストグラム資料で、 $7.6\mu\text{Sv/h}$ 以上のところがありました。それは何処ですか。メッシュマップのどのあたりでしょうか。 |
| 川道専門官 | 除染前の数値となりますが、メッシュ化すると平均化されるので分かりづらくなります。室原だと南西の辺り、津島だと北東の辺りになります。 |
| 眞田委員 | 空間線量のグラフについては、除染直後よりもR3事後の低減率が大きい、これは測定の間隔が違う（期間の差）ということでしょうか。 R3事後の数値は自然減衰ということですか。 |
| 川道専門官 | その通りです。 |
| 眞田委員 | 大堀地区の進捗についてですが、どのくらいで終わるのでしょうか。 |
| 川道専門官 | 拠点については、今年度中に終わります。外縁は来年度も作業が出てきますが、現時点でも未除染があっても $3.8\mu\text{Sv/h}$ を超える所はあまり |

| | |
|-------|--|
| | ありません。解除までには、しっかりと 3.8 を下回るようにします。 |
| 塚田委員長 | 解体の残りの件数はいつ頃終わるのでしょうか。 |
| 川道専門官 | 今年度の工事では、外縁を含み 150 件くらいの予定です。ただ、関係人の事情で、延期や保留になったり状況が変わることもあります。 現在、少し遅れていますが、しっかりとやっていきます。 |
| 塚田委員長 | 申し込みをしても、なかなかやってもらえないという話も聞きます。 |
| 川道専門官 | 受付順にやっているのですが、そのような声もあります。ただ、帰還の意向を聞きながらやるようにしています。 |
| 塚田委員長 | 除染と解体を同時にやった方が効率がいいですが、後になって解体をやって欲しいということで、(大堀は) このような (解体が進んでいない) 状況になっているのですか。 |
| 川道専門官 | 大堀の窯元は、事業廃棄物の片付け後 (所有者にて) に解体になるので、廃棄物の処分に時間が掛かってしまうと遅れてしまいます。 |
| 塚田委員長 | 津島地区の進捗マップの右上にある外縁の赤色部分は何になりますか。 とても大きい範囲ですが。 |
| 川道専門官 | 確認しますが、恐らく森林と思われます。一筆に色が着いていますが、森林の場合は 20m の範囲の除染です。(※その後、確認したところ「農地」であった。農地は一筆が除染となる。) |
| 井上委員 | 解体は 1 軒で、どれくらいかかるのでしょうか。 |
| 川道専門官 | 事前調査等も含めると 2~3 か月くらいかかります。 |

| | |
|---------|---|
| 浪江分室・渡邊 | 実作業は、着手してから 1.5～2 か月かかります。 |
| 塚田委員長 | 今日の現地視察でも、たくさんの方が居て驚きました。複数同時進行なのですね。 |
| 中村課長 | 一つ一つ確認しながら解体をやっていくと掛かります。分別して処理しなければならぬこともあり、丁寧にやっていると日数と一定の時間が掛かります。 |

◆ 線拠点の線量状況について

| 発言者 | 内容 |
|-------|--|
| 川道専門官 | 資料 4 に基づき説明。 |
| 井上委員 | 線量について、平均だけでなく高いところも記載してほしい。どの辺が高いのか傾向が分かるので。 |
| 川道専門官 | 除染前で 3.81 μ Sv/h の所が町道で 1 点ありました。除染前なので除染すれば 3.8 より下げられると考えています。 |
| 塚田委員長 | 一つの測定点は何mくらいですか。測定間隔はどのくらいですか。 |
| 川道専門官 | 道路幅くらいの間隔なので、5mくらいとかだと思います。 |
| 塚田委員長 | 時定数はどれくらいでとっていますか。 |
| 川道専門官 | 短くはしてると思います。(※確認したところ 3 秒であった。) |
| 眞田委員 | 普通は 10m くらいです。30 キロなので、10m だと 3 秒くらいでしょうか。走行サーベイで高いところは崖のところでしょうか。 |

| | |
|-------|---|
| 川道専門官 | 狭くて周囲に森林があるところになります。砂利道なので、下を取れば下げられると思います。 |
| 塚田委員長 | トンネルの線量表記を抜いたのは何故ですか。線量が高いとかですか。事故以前は、トンネルが高いことは皆当然に知っていることですが、あえて抜いたのですか。セシウムは殆ど無いからでしょうか。 |
| 川道専門官 | あえて抜いた訳ではないです。確認すれば走行データはあります。飛びぬけて線量が高い話はありません。 |
| 塚田委員長 | トンネルの外と中では線量の意味が違う。外はセシウム、中は天然の核種がメイン。一緒にしない方がいいんですかね。 |
| 眞田委員 | エビデンスとしては持っていた方がいいと思います。 |
| 塚田委員長 | 測ったのは道路の中央でしょうか。 |
| 川道専門官 | そうです。中央寄りを走りながら拾っています。 |
| 塚田委員長 | 走行中の平均値ですね。分かりました。 |

◆ 大堀拠点被ばく評価（シミュレーション）について

| 発言者 | 内容 |
|-------|---|
| JAEA | 資料5に基づき説明。 |
| 塚田委員長 | D-シャトル測定結果とシミュレーション値が、とても合っていると思いました。これをどこかに挙げていただければ、シミュレータで十分計算（評価）できるということで使えます。 |

| | |
|-------|---|
| | <p>また、今後の先の話になりますが、森林での作業パターン（行動パターン）が重要になってくると思いますので、（パターン評価の作成について）町には前向きに検討してもらいたいと考えます。</p> |
| 塚田委員長 | <p>作業員は通常線量計を着けているのですか。</p> |
| 川道専門官 | <p>はい。被ばく線量管理をしています。</p> |
| 塚田委員長 | <p>20mSv を超えないように管理しているのでしょうか。実際は、従事者は50mSv を超えなければいいのですが。</p> |
| 中村課長 | <p>基本的には 20mSv で管理しています。線量が高いところの作業の後は、少し作業を控えるなどの対応をしています。</p> |

6 その他

◆ 準備宿泊者に対する聞き取り調査結果報告

| 発言者 | 内容 |
|------|---|
| 山田係長 | <p>現在、準備宿泊登録をされている方は 6 件となります。内訳は、室原が 3 件、末森が 2 件、津島が 1 件です。</p> <p>聞き取りを実施した相手は、復興組合の仕事に従事している方で、週に 2, 3 回滞在しており、いずれは夫婦で戻りたいと考えているとのことでした。</p> <p>意見としては、「夜は人がいないので寂しく、防犯面で不安がある。買い物環境については、早く閉まってしまうので夜の買い物が不便。医療・福祉施設が足りない。農作物の猿の被害に困っている。」というものでした。</p> |

| | |
|-------|--|
| 塚田委員長 | <p>まさに地方の過疎地域に多い意見という感じですね。</p> <p>本日訪問した際の話にもありましたが、これから戻ろうと考えている方も周囲にいらっしゃるとのことでしたので、今後も増えるでしょう。</p> |
| 塚田委員長 | <p>準備宿泊中の個人線量測定結果についてですが、住民に説明する際に気を付けてもらいたのですが、「追加被ばく線量が 1mSv を超えない」ということが大事で、バックグラウンドを引いた値で結果を説明してあげた方がいいです。浪江町のバックグラウンドは弘前大がデータを持っているので、確認してみてください。</p> |

7 閉会

| 発言者 | 内容 |
|-----|--------|
| 事務局 | (閉会挨拶) |